

電話相談記録からみえるもの

NPO法人 東京肝臓友の会
事務局長 米澤敦子

治療に関して

- ▶ 節目検診で、C型肝炎なので病院に行くよう言われたのでかかりつけ医に行ったところ、経口剤治療を開始、12週目で突然病院が閉鎖、その後の治療は紹介された専門医で行うことになった。専門医ではじめて自分が2型なのに1型の治療を行っていたことを知った。陰性化していたので治療を継続したが、23週で陽転してしまった。これからどうしたらいいのか。もっと治療のことを勉強しておけばよかった。



陽性者への地域の専門医の紹介

治療に関して

- ▶ 経口剤が保険適用となっているとは知らず、主治医の言われるままIFN、RBV併用治療を始めた。肉体労働なので副作用がきつく、このままだと仕事を辞めざるを得ない。
- ▶ C型肝炎2型にもかかわらず、1型対象の3剤治療を開始、途中で本人が気づき中止した。



病診連携の仕組みづくり



就労に関して

- ▶ 介護士として内定、健康診断書提出後、肝炎のため取り消しになるかもしれないとの不安。
- ▶ 肝炎であることを知らせず、介護ヘルパー職に就いている。仲間が知られてしまい解雇された。
- ▶ B型IFN治療で会社を休職、治療後復職したかったが、いろいろ言われ辞めざるを得なくなった。
- ▶ 転職を考えているが肝炎であることを企業に伝えなければならないか。
- ▶ IFN治療と仕事との両立が不安。
- ▶ 検査通院のため3か月に1度会社を休むのが困難、上司がいい顔をしない。
- ▶ 肝炎であると知らせておらず、職場での検診は受けたくない

就労に関して

- ▶ 肝炎に対する職場での理解を深めるために、肝炎の仲間で啓発活動をおこないたい、その際使用するツールなどが欲しい。
- ▶ 治療について上司に相談、しっかり治して戻って来いと半年間の休職を後押ししてくれた。



職域での啓発 上司の理解

偏見や差別に関して

- ▶ 歯科医で自分の時だけ床や椅子などにブルーシートをかけて治療される。
- ▶ 婦人科に入院時、大きな声で「HBVの人ね」といわれた。
- ▶ かかりつけ医にもう来ないでほしいといわれた
- ▶ 他疾患で入院中、点滴の上部に「C」と大きく書かれたカードをつけられた。その時からウイルスを排除したいと強く思うようになった。



医療機関における感染症対策実施時の配慮

偏見や差別に関して

- ▶ 企業健診で肝炎といわれ、即時、自宅待機を命ぜられた。産業医に相談後も同様の回答。上司と産業医に抗原、抗体について詳細に記された診断書を求められ、何度提出しても納得してもらえず、職場復帰させてもらえない。



産業医の肝炎に関する知識、情報の徹底



偏見や差別に関して

- ▶ 患者自身が感染についての正しい知識をあまり持っていない。患者に対して感染についての正確な情報を知らされる機会が少ない。
- ▶ 歯科医で順番が最後でないと逆に不安で、肝炎であると念を押してしまった。
- ▶ 順番が最後になるなど歯科医での説明不足は改善されるべきだが、あたりまえだという事実を知れば、患者が傷つくこともない。



患者自身の感染に対する正しい知識

ワクチンに関して

- ▶ 家族に感染者はひとりもいないのに、子供がB型肝炎といわれ、保育園の入園を拒否された。
- ▶ 母がB型肝炎、出生時ワクチンの不備で子どもがキャリア化し、小学校入学時にクラス全員にワクチン接種をおこなった。理解を得られ良かった。



ユニバーサルワクチンの定期接種化



感染症患者の思い

- ▶ 中学生の時、親から自分が肝炎であるといわれた。それから異性との交際や、結婚はしないと決めた。人に感染させたくないし、自分と同じ思いをしてほしくない。一生、ひとりで生きていこうと思っている。
- ▶ 付き合っている人に肝炎であることを言っていない。言わなければならないのは理解しているのだが言えない。



一般社会の理解

その他

- ▶ 地域の情報が知りたい、相談にのってくれるところはあるか
- ▶ 医療関係者がおこなっている相談機関はないか



肝疾患相談センターの認知アップ

保健所から紹介された相談内容

- ▶ 新薬治療について詳しく教えてほしい
- ▶ 医療費助成がいつから申請できるのか知りたい
- ▶ 専門医のいる近くの病院を教えてほしい
- ▶ 医療費について知りたい



保健所における肝炎情報の周知